

伊勢原市総合戦略推進会議（第1回）会議録

〔事務局〕 企画部経営企画課

〔開催日時〕 平成27年6月17日（水）午前10時00分～正午

〔開催場所〕 伊勢原市立図書館 第1・第2会議室

〔出席した委員〕 15名

小崎 敏 男（座長）
荒木 淳 子（座長職務代理）
魚見 なつみ
小薄 宏 三
笠原 浩
川副 正 教
熊沢 学
西郷 公 子
佐藤 清
篠崎 文 一
菅谷 裕 子
辻 敦 史
原 昭 智
引田 道 人
吉池 沙 季

〔欠席した委員〕 1名

大谷 健 治

〔事務局〕 8名

高山 松太郎（市長）
穴戸 晴 一（副市長）
武山 哲（副市長）
山口 清 治（企画部長）
黒石 正 幸（経営企画課長）
熊澤 信 一（経営企画課副主幹）
飯嶋 智 雄（経営企画課主事）

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 1名

《議事の経過》

1. 市長あいさつ
2. 委員の紹介
3. 座長及び職務代理者の選出
4. 議 題
 - (1) 「伊勢原市人口ビジョン」及び「伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について
 - (2) その他

(事務局)

皆様おはようございます。

定刻となりましたので、第1回伊勢原市総合戦略推進会議を開催させていただきます。本日、司会進行をしております、経営企画課長の黒石と申します。よろしくお願いたします。会議が円滑に進行するよう皆様のご協力をお願いいたします。

本推進会議開催にあたりまして、事前にご承知おきいただきたい事項がございます。

本推進会議は、「伊勢原市審議会等の在り方に関する基本方針」の規定に基づき、公開により行いますので、よろしくお願い致します。

また、「伊勢原市審議会等の公開に関する要綱」に基づきまして、会議の内容は、市のホームページ、市政情報コーナーで公開させていただくこととなります。あわせまして、会議の記録のため、録音等をさせていただきたいと存じますので、ご理解をお願い申し上げます。

なお、本日は、傍聴人の方が1名いられます。

傍聴人の方にお伝えいたします。お手元でございます「傍聴を希望される方へのお願い」によく目をお通しくださるようお願いいたします。会議が円滑に進行するよう皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、お配りしてございます、次第の順に従いまして会を進めさせていただきます。

それでは、まず会の開催にあたりまして、高山市長より挨拶を申し上げます。よろしくお願いたします。

1. 市長あいさつ

(市長)

皆様おはようございます。

本日は、大変お忙しい中、第1回伊勢原市総合戦略推進会議にご出席を賜り心からお礼申し上げます。

日ごろ各分野、お立場においてご協力頂いております皆様から、委員の委嘱について御快諾を頂き、この場をお借りして、心から御礼申し上げます。そして、委嘱状につきまして机上に配付させていただいております。

本来ならば、委嘱式を行い、直接皆様に交付をすべきであると思っておりますが、会議時間も限られておりますので、なるべく皆様に議論をしていただくために、このような形を取らせて頂きました。ご理解、ご了承をよろしくお願い申し上げます。

さて、現在、我が国では、世界に類を見ないスピードで「人口減少・超高齢社会」が進んでおり、経済規模の縮小など構造的な課題に直面しています。わたくしども 24 %で、もう一年もたちますと、25 %になり四人に一人が高齢者という構成になっております。

これらの打開に向け、国においては、人口減少社会の克服と地方経済の再生を柱とする地方創生を推進するために、昨年11月、「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、そうした中で「長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

一方で、私ども地方公共団体においても、平成27年度中に、人口の現状と将来の姿を示し、今後取り組むべき将来の展望を提示する「地方人口ビジョン」と、人口減少の克服、地方創生を実現するため、平成31年度までの5カ年を計画期間とする「地方版総合戦略」の策定が求められています。

今年度、全国の市町村において、人口減少の克服と地域経済の再生という、同じテーマを持って、地方版総合戦略の策定に、一斉に取り組むことになりました。

現在、本市では、第5次総合計画策定時に平成34年に9万7千人程度に減少すると見込まれる人口を、さまざまな事業に取り組むことによって、人口維持を目指してきているところです。

人口減少は、まちの活力低下、税収の減少など様々な影響が見込まれます。今後も本市が成熟し、かつ、活気あふれるまちとして発展を続けるためには、人口規模を維持することが望まれます。

安定した人口構造の保持と地域の活性化を図り、若い世代を中心として、将来にわたって市民が安心して働き、希望に応じた結婚、出産、子育てをすることができる地域社会の実現に向け、本市の実状や課題を的確に捉え、実効性のある、総合戦略の策定に取り組んでいく必要があると考えています。

このようなことから、本日、第1回の伊勢原市総合戦略推進会議を開催させて頂きませんが、委員の皆様には、本市におけるまち・ひと・しごと創生の推進にあたり、専門的

な視点、また、市民目線から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたしますを。以上をもちまして、挨拶とさせていただきます。

2. 委員の紹介

(事務局)

続きまして、次第の二つ目、委員の紹介に移らせていただきます。

恐れ入りますが、自己紹介でお願いしたいと存じますが、本日欠席の方がおられました。既にご連絡をいただいております。名簿の3番、大谷健二さんにつきましては、本日欠席の連絡が入っております。

それでは、お配りいたしました名簿の順番で、所属とお名前をお願いいたします。それでは荒木委員からお願いいたします。

—委員自己紹介—

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、名簿の裏側になります、事務局の紹介をさせていただきます。

—事務局自己紹介—

3. 座長及び職務代理者の選出

(事務局)

それでは、次第に従いまして、次第の3座長及び職務代理者の選出をいたしたいと存じます。伊勢原市総合戦略推進会議設置要綱第5条に基づき、座長は市長の指名により定め、職務代理は、座長の指名といたしております。それでは、座長の指名を、市長よろしくお願いいたします。

(市長)

指名をするという事ですので、私からお願いをさせていただきます。

小崎敏男委員に座長をお願いをしたいと存じます。どうぞよろしくお願いい致します。

(事務局)

それでは、本推進会議の座長は小崎敏男委員をお願いすることとなりました。それでは、席をお移り頂きたいと思えます。

続きまして、職務代理者の指名を行いたいと思えます。職務代理は、要綱に基づきまして、座長から職務代理者の指名をお願いすることとなっています。

それでは座長、職務代理者の指名をお願いいたします。

(座長)

それでは、荒木淳子委員に職務代理者をお願いしたいと存じます。

(事務局)

荒木委員いかがでしょうか。よろしくお願いい致します。

それでは、ここで、小崎座長と荒木座長職務代理者から、一言頂戴したいと存じます。

よろしく申し上げます。

(座長)

私の専門は労働経済学で、ここ十年当たり、人口減少と労働生産というテーマで研究をしてきました。今日は、配布されていると思いますけれども、印刷そのものが都道府県別のデータなので、今日市から配布されているものは国ベースそれから伊勢原市のデータしかなかったので、私がそこに書いたものは、都道府県別の去年 11 月のデータですので、ごく最近のデータだと思いますので、使えると思ひまして配布しております。

それと今日、本を二冊くらい持ってきたので、今まで勉強してきたところのものを回覧して頂いてですね、もし図書館に入っていれば企画部のほうに寄贈して、もし入っていなければ図書館の方に寄贈したいと思ひます。

よろしくお願ひ致します。

(事務局)

ありがとうございます。続きまして、荒木職務代理よろしくお願ひ致します。

(職務代理)

私は大山の麓にある湘南キャンパスの産能大の方で大学生のキャリア教育や、元々専門が人材マネジメントですので、人材マネジメント等を教えております。キャリアの研究をしておりますので、私自身娘がおりまして、伊勢原市民で子育てをしておりますので、働く女性のキャリアですとか、子育てといったところに関心があつて研究をしております。職務代理という立場でお役に立てるかはわからないのですが、皆さんのご意見を伺いながら、いい案が出来るように頑張つて行きたいと思ひます。

よろしくお願ひ致します。

(事務局)

ありがとうございました。なお、市長は他の公務により、ここで退席とさせていただきます。ここからは、小崎座長に進行していただきます。よろしくお願ひいたします。

4. 議 題

(1) 「伊勢原市人口ビジョン」及び「伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について

(座長)

それでは、早速、次第に従ひまして、議事に入らせていただきます。議事の 1 番目、「伊勢原市人口ビジョン」及び「伊勢原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは議題について説明させていただきます。

—資料について説明—

(座長)

事務局より説明がありましたが、何か質問はございますか。

(委員)

資料の4総合計画の中期戦略事業プランの改訂というところがありましたが、見落とされたかもしれないのですが、中期戦略事業プランは計画期間というのはあるのですか。

(事務局)

中期戦略事業プランは総合計画の最も具体的な実施計画になっておりまして、現在第1期目の中期戦略事業プランは平成25年度から27年度までの3カ年で運営されております。今年度、次期にあたります平成28、29年度までの2カ年間の見直し作業を行って行きます。

(委員)

資料2の5ページの合計特殊出生率というのはどういうデータか。

(事務局)

合計特殊出生率は、15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、国、神奈川県、市町村のそれぞれのレベルで合計特殊出生率を策定しております。

(座長)

補足をさせていただきますと、合計特殊出生率は、英語では特殊がないのですね。専門家の間では特殊を用いない。マスメディアの間では、合計出生率と呼ばれて、15～49歳の女性で何人生みましましたか、といわれるところの人数になっております。

他にはございませんか。

それでは持ち回りで人口減少対策、地域経済を活性するためのお考えを各委員から一人ずつお聞きしたいと思います。

(委員)

私は申し訳ないのですが、一人しか子どもを生んでおりません。子育て支援で別の会議に出ておりましたけれども、伊勢原に関する子育て支援に対する母親の意見としては、母親にはあまり優しくないのかなというのがよく聞く話なのです。私は7年前に伊勢原市に引っ越してきて、そして子どもを授かって生んだのですけれども、すごく住みやすく良い町だと思うので、住み続けるつもりで、ずっといます。でも、なぜこうやって出て行っちゃうのかなというのを見ると、子どもを育てるためのやさしい施設というのはすぐに行ける施設ということで、そういう施設が少ないのかなというのがあって、人口が流失してしまう。厚木や秦野、海老名は、素敵な公園がたくさんあるなというような、そういう所なのです。そういう所に行きたくなっちゃうのですよ。そういった所で、公募という形で、こういう会議に入れさせてもらいましたけれども、ただの母親の意見として、こういう意見があるんだよと。以上でございます。

(委員)

労働団体ということで話をさせてもらおうということなのですが、実は私、会社が平塚で、住んでいるところは大磯で、伊勢原という所には正直薄いところがあるのですが、その中でいろいろ私どもの周りの社員に「伊勢原ってどういうイメージのところだ」って聞くと、大山とか豆腐という話が出るのですが、住むというところで言うと、良く

もなく悪くもなくという話が出てました。私どもの会社はつい昨年度、実は工場を長野の方に移転をしまして、やはり企業誘致というところを、村、町がしっかり対応してもらえたところが一方ではありました。こちらに住んでいる方が向こうに住むということになったときに、企業の町の言ってみれば住宅、新築を立てて家族を受け入れるということですね。たとえば、月々6万円で新築の一軒家で30坪以上のところに住んでもらって、お子さんのいる方を条件に補助が出たり、そんなことの中でなんとか家族で来て欲しいということもありました。われわれも会社の中で、そんなこともあったのですが、なかなか今住んでいる所からそういった所に行くということは抵抗があるのですけれども、企業誘致は人口の戦略の中で基盤のところになるのかなと思います。

それと、子育て支援といったところで、お子さんが生まれたときに補助が出るというところで、充実している所とそうではない所と出てくると思うので、そんなところもアピールするところも大事なのかなと。住む所の中でなら、交通の便が一番重要視するかなと思います。われわれのイメージでは伊勢原は街中が混んでいるなというイメージがありますので、周りから話を聞くとそんなところなんです。細かいことは話していませんが、こんなことが一例の中で話そうと思っていたところです。以上です。

(委員)

自分は、伊勢原で生まれ育ちまして、子どもが三人おりまして、一番下はまだ小学生ですが、自分が子育てをしている中で妻とよく話しをすることは、家族で揃って出かけるときに平塚の総合運動公園、秦野の大根公園、厚木の防災の丘公園という、こういう他市の公園に行くことが多かったなあと。また、そこに行くと、いつも多くの家族が遊んでいられるし、三世代でみんな遊んでいるし、これが伊勢原の総合運動公園に行くと、野球場があっても遊具は少なく、階段であったり、スロープであったり、なかなか年をめされた方が有意義に過ごしている場もなく、三世代で行くのは難しい場なのかなと。そういう意味では自分自身も核家族化しているので、父や母とかと一緒に住んではないのですが、今雇用とか生活を支える上で、奥様が働かされている家が多いと思うのですが、そういったときに何が必要なんだろうかと。昔の日本では何をしてたかというところ、大家族でおじいちゃん、おばあちゃんが子育てにある意味面倒を見てくれていた。そういうのが出来ているのが伊勢原なのではないかと。東京とかでは出来ていなくても、この場所であれば、逆にいうと核家族化が逆に進む大家族化が進めるのかもしれないと、そんなことも子育て世代として考えた時期もありました。

もうひとつ産業的なところでいえば、今伊勢原には東部第2土地区画整理事業が進んでおりますけれども、工業団地が出来て企業誘致するという話が進んでいます。この中で今一番必要なのは本社機能をもった企業に入ってもらおうという約束ごとを取り付けることが必要なのかなと。鈴川の工業団地には本社機能を持たない企業が多く、なかなか法人税が入っていないということを聞いています。そういった意味で、伊勢原市が活性化していく、これから人やモノやみんなが集っていくためには、企業を本社機能を持って移転して頂ければと。そういう取組をしていければということを考えております。

(委員)

私は日産自動車におりまして、ここに来て一年くらいで、その前は横須賀の工場で、その前は横浜の工場で、神奈川県におりましたけれども、色々な企業の誘致という話が出ていました。私どもとしましては、どこで車作ろうとか、最近はグローバルになっておりまして、横須賀の工場も非常に寂しくなっております、車の生産が落ちているということがあります。やはり、全国で企業誘致は色々な自治体が一生懸命やられております、やはりそこに勝っていくには特徴的なところが必要なのかなと思います。我々も、どこに進出するのかということを決めるときに、その自治体ですとか県ですとか市ですとか、どのようなバックアップをしてくれるかといったところが大きな要素で、それが最終的なポイントになるのかなと思います。色々なところで話して回ってみたんですけれども、東京圏は非常に良いということで 神奈川も東京圏なんですけれども、実際伊勢原のあたりとか横須賀のあたりとか、その東京圏の中での難しい、地方的な存在なのかなというのがあって、環境的には難しい場所にあるのかなと。そこをどうやっていくのかについてはひとつ大きなポイントなんだろうなとは思いますが、先ほどの企業誘致に関しましては、ぜひそのとおりだなと思いますし、工場なんかがあると、回りにサプライヤーさんですとか、関係のあるところなどが近くに来てもらえますし、そういった環境も出来てくると非常に良いのかなと。ただ、その辺のことにはかなり競争が厳しい関係にあるのかなと。私としましては、環境が良いところだなと思っておりますし、大山とか観光で売っていこうという方針も出されておりますけれども、そういうひとつの大きな違いがあるのかなと思います。私も伊勢原に住んでおりますけれども、みながどこでどう選んでいるのかなということは詳しくは聞いておりませんが、回りの人間にも聞きながら、今後の会議の参考に出せればなと。

(委員)

私は今独身なので、子育ての話が出来ないのですけれども。仕事柄、市内を車で回ったりとかすることも多かったり、お客さんとまちのことを話をする機会が非常に多いです。仕事の地域でやらせて頂いているのですが、たとえば青年会議所ですとか、商工会議所青年部にも入会させてもらったりとか、地元の商店街で色々なイベントをやらせてもらったりとか、最近では去年秋くらいから、伊勢原市の商業振興計画に基づいた、まちづくり協議会というところで、ひとつのプロジェクトのリーダーをやらせてもらったり、さまざまな活動をさせて頂いております。

直近でいえば、五月の連休に商店街と観光協会と伊勢原市役所の担当課と協働で、連休中に伊勢原駅でおもてなし事業ということで、伊勢原市に来られた観光客の方にパンフレットを配って、その際に アンケートを取らせていたんですけれども、伊勢原に観光客からこんな要望が来てるんだなとアンケートを見ながら考えさせてもらったり、六月の初めに先ほど話ししました商業振興計画の中で、大山と地元の商店街をめぐる商店街観光ツアーということに関わらせてもらって、伊勢原というところは観光地もあって中に商店街もあってコンパクトに、伊勢原市の中だけに、観光地と魅力ある商店街があ

ります。商店街ツアーも非常に人気があって、定員に対して2倍以上の応募があって、参加できたのも抽選で選ばれた限られた人だけだったということがあって、TVKにも取材してもらい、映像として8分くらいにまとめてもらったのですけれど、ひとつの街の中に観光地もある、商店街もあるいいまちだなと。商業者、自営業でやっている方とか含めて、小さくても良いですから、皆様がイベントに関わるとか、イベント発信していけば、地域の連帯感も生まれるのかなと。それがふるさとに対する誇りを高めるというのを基本目標の中に書いてあるのですけれども、達成できれば若い人の定住などにつながるのではないかなと。

嬉しいのは、地元の産業能率大学さんですとか、学生さんがイベントにお手伝いに来ることが多々あるのですよ。そういった学生に対して、何か例えば伊勢原で下宿している学生さんにアパート代を補助するとか、そういうことをやっている自治体もあると聞いておりますので、地域の活動に学生が参加する見返りに、何か学生に対して補助できる制度があれば。よりこの先さらに住み続けたいなという魅力も生まれるのではないかなあと考えておりました。私からのアイデアとさせていただきます。以上です。

(委員)

私はあまりよくわかってはいないかもしれないのですが、神奈川新聞の方から見ますと、伊勢原という地域は、厚木の方の担当がやっていた時期もあれば、小田原の方の地域に組み込まれているところもあれば、それでいながら湘南ナンバーであったり、地元の方が外で説明するときには横浜の方で説明するケースも往々にしてあると聞いています。県内では真ん中といえば真ん中なのですけれども、大山がはっきりしているので、場所的にはわかると思うのですけれど、微妙な立ち位置にあるような気もしています。私が厚木支局にいたときに、青山学院大学さんが日産さんに土地を売るときに必死に書いた記憶があるのですけれども、そういう厚木のイメージが強いのですけれども、伊勢原にも日産があるということをはっきりわかっているようでわかってないというところも多いのかなと。

今日のうちの新聞を見ると、企業誘致に熱心に伊勢原さんもやってこられていると考えておまして、そういう意味では大手と中小企業とのミックスが重要なのかなと。大手さんが一気にいなくなると、まちへの影響が非常に大きくなると考えています。本日のうちの新聞の経済面で、帝国データバンク横浜支店によると、10年間で神奈川県内に転入した企業は780社転入超過だそうで、全国で埼玉に継ぐもので、がんばって来たのではないかなと考えております。相模信金さんが秦野・西小田原の南足柄のデータなのですけれども、地方創生でアンケートされていて、一番期待しているのは、地産地消の活性化ということだったので、そういう視点が重要なのかなと思っています。

伊勢原は、非常に団結心が強くて、大山を中心に色々なイベントを商店街の青年会の方とかがやられてきているので、そういう意味でも地域を延ばすというか、伊勢原、県内のいろいろな地域からも含めて、県外の方の流入を増やしていくことが大切かと。たとえば、小田急電車も埼玉・千葉も伸びているので、そういう交流人口を増やしていく

ことがより必要で、地産地消を広げていくのが重要なんじゃないかと思います。メディアの立場から申しますと、一時期 10 年くらい前は広告をセールスする意味でも、大企業が何を考えているのかという意味でも、多くのメディアミックス、新聞だけじゃない、電車の中の公告、看板とかが重要で、接触度が重要視されていて、カスタマーにどうアクセスするかということが重要だったんですけど、最近は変わってきて、よりウィズ・カスタマーになっているといわれていて、SNS ですとか Twitter ですとか色々な接触により、コミュニティが横に勝手に広めてくれる。そういうものも、よりアクセスするためには共感が必要だといわれているので、そういう何かものがどう共感をもって一緒にやれるかとか、すごく重要になってくるのかなという風に思っています。

私は個人の関心からいうと、一極集中是正とか国が言っているのですが、戦略を考える上では、神奈川県下には外国人就労がもの凄く多い。横浜のコンビニは中国人店員が多い。川崎の臨海部や茨城とか箱根なんかも外国人従業員の方が増えていますけど、そういうものとの兼ね合いはどういう風になるのかなと個人的な関心としてあります。

(委員)

これから総合戦略策定の中で、具体的に進めていくわけですけども、当然ですけども地域特性を咀嚼して戦略に入れていくかポイントになってくるのではないかと思います。

それで、県の立場で申しますと、県全体を見ましても伊勢原市は転入超過がずっと続いているということはございましたけれども、全体的にポテンシャルが高い地域だと私は思っております、たとえば新東名、国道 246 号バイパスとか、基幹道路が出来上がっていくと。それに関連しまして、先ほど東部第 2 のお話もございましたけれども、県も相模川沿線を相模ロボット産業特区と位置づけて重視しております。観光の関係では、県の方で横浜、鎌倉、箱根に次ぐ、第 4 の観光地として国際観光地を作っていこうということで、その一つが大山地域ということでご尽力いただいています。大山の自然はもとより、歴史とか文化の蓄積、地域の皆様の盛り上がりがあって今進んできているのかなと思います。それから今、ソフト面でいいますと、医療体制も充実しているということが伊勢原の特色としてあるのかなと思います。そういった伊勢原の将来に向かってのポテンシャル、今ある資源をよく見ればいっぱいあるんじゃないかと思います。

もう一点は、今回の総合戦略につきましては、県全体の総合戦略も作ることでございまして、本格的に始まったところでございます。今のスケジュールですと、9 月くらいに素案のスケジューリングでやっていきますので、時期的に連動していくと思います。出来るだけ、そういう中で県と市の戦略をすり合わせをさせて頂いて、相乗効果が出るようにしていきたいなと思います。以上です。

(委員)

人口減少の克服や地域経済の活性化や解決策としては、地域の仕事づくり、そこで働かれる生産年齢人口が増えるということが一番なのかなと。今後も高齢化社会が進むと思いますので、65 歳以上の人口が増えていくということで、老年人口の就業関係整備

が重要ではないかと考えております。具体的に申し上げますと、地域経済データにあるようですけれど、伊勢原市内の製造業の付加価値額は全産業に占める割合が 50 % 近くあるというような形になっておりまして、中心的な役割を果たしている。製造業の支援、整備、売り上げとか雇用の増加、また、市内経済の経済波及効果にもつながっていくのかなど。また、医療支援というのも当然高齢社会に向かっても必要な施策だと思えます。

既にお話出ておりますけれども、全国的にも有名だと思いますが、大山というすばらしい観光資源を抱えておりますので、支援というのは、成長産業の支援としても非常に重要なのかなど。地域系もあるとは思いますが、中小企業では後継者がいなくて、後継者難で事業をたたまれてしまう企業さんも多いとなっていると伺っております。横浜銀行では、事業承継支援をしており、後継者難に対する企業さんへのご協力を通じて地域に貢献出来るのではないかと考えております。伊勢原市さんは総合計画、産業ビジョンというような形で地域経済の活性化に対する情熱を持っているというか非常に素晴らしいものがあると思っておりますので、改めて申し上げるまでもなかったのですが、このような点を踏まえましてですね、地域間の内容としまして、このような会議に参加させて頂いている場を通じて、議論をさせて頂いて、よりよい形で地域の貢献に参加していきたいなど。私は以上です。

(委員)

小田急沿線の観光プロモーションに従事しておりまして、大山を担当しております。大山エリアは三年が終わるところで、私からの観光プロモーションというと、伊勢原というと大山エリアの話になったり、観光という偏った視野になってしまうことをご容赦頂ければと思います。

人口減少、地域経済縮小の克服のため、観光の側面からお話をさせて頂きますと、これまでの委員の方から、大山って全国的に有名だよねとかあったのですが、ちょっと私どもの古いデータで恐縮なんですけど、2012 年度にウェブ調査を実施しました。東京、神奈川在住の方 2400 人を対象に調査をしたところ、大山を知っていますかと聞くと、大山の認知度は 4 割に満たなかったです。東京、神奈川ですら、39.4 % しか大山を知らない。特に東京にいたっては 27.2 % で 3 割。ここにいらっしゃる方々は関係のある方なので、大山といえばあそこだよねとなりますが、実はまだ、大山(だいせん)と読まれてしまう。鳥取の「だいせん」が有名だったりするので、ひよっとすると生意気なことかもしれませんが、大山の認知度はまだまだ低いのかなど。この数字を見たとき、小田急グループの中でもこんなに低いんだっていう驚きでした。どんなところかと名前だけ知ってるという人のうち 2 割が来ておらず、その中でも訪問が一回だけの方が 4 割、リピーターがいないというのが、我々が突きつけられた現実でございました。こういった色々な調査をやっているのですが、なかなか公開できないものなので、私からの話はこういった現実を突きつけられて、私達としてはまず知って頂くこと。ただ知ってもらっても結局 2 割の人は来てないし、4 割の人は一回。大山ってどういう所かしっかりイメージを持ってもらおう、しっかりとしたイメージ形成をしようということが先

ず取り組んだところでは。

大山って何もないかなって、そんなこともなくて、実はコンサルの力も借りましたし、何度も行ってますし、改めて細かいところから見つめ直してきました。実は他のエリアには負けない、大山って他のエリアが持とうと思っても持てない、たくさんの魅力があるなと気付きました。脈々と受け継がれている歴史ですとか、豊かな希少な文化、自然独自性のある文化を見付けることが出来ました。私たちはまず、こういう魅力を丁寧に発信することで先ずは大山エリアの認知向上を図ろうと。大山には歴史があって自然があって、文化があるというような明確なイメージを持ってもらおうと、大山ってああいふ所なんだよね、だったら私行ってみたいと思って頂けるような動機づけです。私どもは動機づけまでしか出来ないのですけれど、こういった動機づけをしていくという取組を実際、私の経験からですけれど、人口減少ですとか、克服をどうするかということも同じことが言えるのではないかなと。

伊勢原ってわかっているようで、はっきりしないよね、たぶんそうなんだと。医療が充実しているですとか、大きな企業さんがいらっしゃるとか、子育てお母さんには優しくはないのかもしれませんが、本当に公園ないのかな、ひよっとすると実はあるかもしれない。まずは、伊勢原が今持っている資源というものをもう一度丁寧にみつめ直すことが必要なんじゃないかなと。そうすることで伊勢原という、伊勢原というのはこんな所なんだよっていうところを知ってもらって、それで皆さんに来て頂く、好きになって頂く、住んで頂く。そのために共感して頂かなければいけないのかなと。

私達プロモーションをやって新しいこととか、流行りですとか飛び付きがちなんですけど、大山に関しては一切やめようと約束しました。奇を衒ったこと、新しいことをやっても絶対に根付かないという小田急グループの共通認識としてありました。発信の仕方は変えるかもしれないけれども、今あるものをしっかり発信していくことが私どもの考えです。地域の課題の答えは地域にあるのかなと、生意気ながら思うことでありますので、私の経験からお話できるところかなと思います。

各論になってしまうのですけれども、いろいろなイベントの話があったと思うのですが、大山のプロモーションを小田急グループだけでやっても先細りなので、地域の皆さんと一緒にやっていきたいという思いが非常に強いです。なかなか皆さん、人手がいらないだよ、俺とばあちゃんだけじゃやりたいと思っていても時間がなくてというお声を非常に聞きます。みなさんやりたいと思っていても、後継者がいないとか、自分が手一杯でプロモーションまでやっていられない、という悔しい思いを聞くことが多い。簡単なことではないのですけれども、雇用の創出は、大企業さんの誘致は非常に大きなお薬になると思うのですけれども、こうやって 1、2 人で商売でやっている事業に興味を持って頂ければ、その中で雇用創出は出来る。そういうことも、すごく簡単に語ってしまっていて恐縮なのですけれどもあるのではないかなと思います。長くなりましたが以上です。

(委員)

私は、人口減少とか支援ということでは、子どもが今年三月に生まれて子育てする親

なのですけれども、農業者の意見として話したいと思います。

私がここで、伊勢原で農業をしているのは全くの偶然でしかないのです。特殊な栽培技術をどうしてもやりたい、そのためにはハウスを建てなければならなかった。お金もなかったのでハウスを借りられるところを探して、いろいろな人に話しを聞いて、ハウスが伊勢原で見つかった。偶然であって偶然じゃでないなと感じました。農業を始めてわかったことは、伊勢原には果樹、きのこ何でもあるんですけど、どれも認知されていない。凄く良いものがたくさんあるのに、それこそ鎌倉野菜なんかは何があるわけでもないのに、持ち上げられている現状もあります。何で伊勢原はないんだろうって思ってしまうのですね。農業者として、これからやって行きたいこととして、伊勢原というものを感ぜられるような農産物、農業者全体でやっていきたい。JA 青年部に入ったのですけれども、そういった伊勢原でこうこともあるよといったものをもっとアピールしていきたいなと思っています。

私は川崎市出身なんですけれども、川崎と比べると仕事もなければ、下水道も整っていない、インフラという部分では勝てない。ただ、伊勢原市の魅力って、大山の地域だと僕は思っていて、不便さやライフスタイルだったり、私は農業者としてもかなり少数派、マイノリティなんですけど、こういうライフスタイルもあるよとか、不便さが魅力ということ伝えていければなど。まとまってないのですけれども、地域活性化の一端を担っていければ良いなと思っています。

(委員)

皆さまご存知だと思いますが、信用金庫は営業エリアを法律で限定されております。今回はこのような人口問題、仕事、ひと、循環といったことは、我々信金マンにとっては切っては切れない問題でありまして、バブルがはじけた平成7年くらいから、人口減少による地域の衰退ということで、信金中央金庫が中心になりまして、全国の信用金庫の中で調査や改善、いろいろな産業を担ってきた経緯がございます。実際私の手元に資料があるのですが、業界全体として基金として考えているものがいくつか乗っております。

その中で、今回、まち・ひと・しごと創生というような総合戦略の趣旨になっておりますが、我々の業界の方ですと、先ず仕事があって、次に人がいて、人の好循環によって町の活性化が図られるのじゃないかなと。そういうような考えを持っている何人かの専門家のお話をお聞きした中で、実は仕事があって 仕事によって人が集まって、町が潤ってくる。そういうような考えの中で、先ほど小田急の方、横浜銀行の方お話をされたと思うのですが、埋もれている地域の資源をどのように活用していくかとか、新しいものをつくるというよりも、伊勢原に昔からある、大山、江戸時代から大山詣りという形の中で、どうも江戸時代の方は大山詣りが粹というか人生のステータスのひとつとしてあった。東京から鎌倉方面からいくつか大山街道という道もあると聞いております。そういうような観光資源を生かしてまた東部の工業団地、第二東名、246のインター等、新しい分野の道路網による活性化というものもいえるのではないかと。それから、先ほ

どお話のあった、商業の方、工業の方、それぞれ経営資源、事業承継に携われる M & A 等現在推進している最中でございます。そのような中で、私は個人的に思うのですが、伊勢原市さんだけではなくて、近隣の秦野市、厚木市、厚木市でしたら相模川の鮎とか秦野市でも同じように大山詣りのハイキングコースみたいなものがございますので、近隣の地域が協力して、今回の総合戦略の趣旨が出来ればより良い伊勢原市になるのではないかと。

私は秦野に住んでいるのですが 伊勢原の商人の方、工業の方、それぞれ分野が違いますけれども、まちを活性化するのだ、よくするのだと、市役所の方もそうですが、大変熱意をもって進んでられると思います。今回いろいろお話を聞きながら、また発言できるという機会を頂いたということに感謝しております。一緒になって、がんばって、いいものを作り上げたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(委員)

私の、お話をさせていただく前に若干キャリアの話をして頂きたいと思ひます。私は団塊世代のど真ん中、昭和 23 年生まれでございます。民間企業 44 年勤めました。団塊世代の特徴は、競争です。凄まじい競争、良い競争もたくさんして参りました。会社入ってもそうですし、ちなみに、出身地は長崎市です。九州です。中学は一学年が 24 クラス、1300 人いるようなそういう所で生まれ育った。学生時代は大阪にいました。コマツという建設機械の会社でございますけれども、グローバルな急成長したときのど真ん中におりまして、海外駐在三箇所各 4 年、ベルギー、オーストラリア、中国という家族と一緒にいたりして、外地の良さ、日本と違う良さ、外から見るとよくあります。それで、伊勢原には、35 年前に高森の方に参りまして、大変好きで、伊勢原大好きになりました。

先ほどお話出ておりますけれども、大変良いポジション、ロケーション的にもそうですし、地理的にもそうです。人口規模、産業規模、自然、歴史等、絶好に良いポジションにあると考えております。ひとつは、small is beautiful ということで compact is beautiful ということで、あんまり大きくない方が良いのですよ。あまり過疎地帯もよくないですが、そういう意味でポテンシャルを作れるし、実際あると思ひます。それから、私がちょっと定年間際になってお誘ひがあつて、佐世保市の三井松島産業に誘われて、6 年間佐世保市に来ましてですね、生活しました。これは、大変地方都市の良さを満喫したということと、大変歴史的なものとか産業的なものも含めて参考になることがたくさんございましたし、今回のテーマで私、日ごろ関心があるテーマでもありますし、いくつかお手伝いできればということで応募した次第です。

ちょっと参考なのですけど、佐世保市はご存知かと思ひますが、ハウステンボスってのがあるんですよ。公金が大きなお金を注ぎ込んでスタートしたのですけれども、破産状態になったわけです。HIS が経営に入りまして、急成長して人は集まるわ、お金が集まるわ、それから出資している佐世保市にも前倒しで返済した。それを間近に見ていた。やはりアイデアとそれを推進する人がいるのですよ。これは、司令塔であり、リーダー

であり、今日お話を上げられている中で、戦略、分析、推進していくインフラは大事なところで、これがないと議論できないです。状況もわかった、戦略がはっきりした、それを誰が引っ張っていくのか。ハウステンボスのやり方というのは、小さな学会関係、それをいっぱい、お医者さんの集まりとか、地質学者とかイベント会場にしたりとか、魚の分析とか、商店街の人の集会とかを取り込んだとか。ファッションショー、フラワーフェスティバル、季節に合わせてオクトーバーフェストといったビールの大会をやるとかですね。平日のときと料金体系をきめ細かに変えて行った。先ほどは色々な考え方で発信力を強める。そのとおりだと思うのですが、同時にニーズは変わってきていると思うのです。ニーズを正確に捉えながら、しかも変わっていくニーズに対応していくということにおいては、人が来てリピーターが増えるというのは、行って良かった、楽しかった、便利だったというのがあれば、また来るわけです。どうやったら、楽しくなるのか、面白くなるのか掘り下げていくと次に打つ手が見えてくるという気が致しました。海外出張恐らく 1000 回くらい、駐在 13 年間で行った国が 55 カ国なんですけどね、そんな中でも日本が大好き、日本の良さを伊勢原市という中で、いくつかお話をしたいと思っております。

それとですね、これは、ちょっと予断かもしれないですけど、四日ほど前にですね、海外事業部の OB 会がございまして、坂根委員、ご存知の方いらっしゃるとは思いますが、日本創生会議メンバーで意見発信されているのですが、石川県も新幹線出来たり、地方の方が面白いぞというメッセージを強力に発信されている方で、東京に本社あるのですが、そこの既婚者の方の子ども数と地方都市の石川県の工場の女の人の子ども数、倍ほど違います。地方の方が多。産んで育てる環境、時間があるおじいちゃん、おばあちゃんが世話をするというので、そういう話を石破大臣にもしている。仕事の関係で一緒に近いところでやった関係もあり、私がこのような委員になったと聞くと、大変喜んでいました。ヒントの中で、最後に言ったのは、総理や石破大臣とかが言っているのは、やはり民間の力が引っ張っていくことがより必要ということ。行政の方は仕組みづくりと民間と連携してやっていかななくてはならない。推進して動かしていく為には、日産の方もいらっしゃいますけど、民間の活力、民間の色々な知恵、色々な経験をしておりますので、それを生かして、大競争にも勝ち抜くと弱点も知っている、強みも知っている。外から見れる力もあると活かしながらですね、何らかの実践が出来たらいいかなと思っております。よろしく申し上げます 以上そういうところで、ささやかながらご協力させて頂けたらありがたいなど。以上でございます。

(委員)

若者ということで、自分なりの考え方や感じていることについてお話できればと。私自身は茨城県出身でして、大学で上京し、神奈川の秦野市に住んでいます。来年の春からは東京で働くことになっています。まさに、東京一極集中というか、地方から移ってきた若者、このような中の一人かなと思っております。東京で働くという選択をしたのも、都市への魅力、憧れがありますが、自分自身が茨城県の自然豊かなところの出身である

ので、子ども育てるのは地方がいいなという風な希望を持っています。一度神奈川にもやってきましたし、第二の故郷だなと感じています。東京に行ってしまった若者が戻ってくるときに、やはり伊勢原でいうと大学病院もありますので、安心して子育てが出来る環境が整っており、全面的にアピールしたいなと思います。政府が地元の企業に就職した学生に奨学金を一部免除するような話もあったので、そういったところで、学生や若者がまた地方に戻ってくるといったところで、子育て支援だったりとか、住環境の補助があったら、東京に行く人たちを少しでも地方に流せるのじゃないかなと思います。子育てするならこの町だ、という魅力あるまちづくりになっていけたらいいんじゃないかなという風に思います。個人的な意見になってしまうのですが、若者の意見として受けとめていただければと思います。

(職務代理)

学生の都心回帰があって、学生の就職も都心で働きたい学生もいるのですけれど、伊勢原ですべて育て、伊勢原高校から産業能率大学に来て、246 を越えた事がないという学生もいまして、伊勢原に就職したいという学生もいるのですけれども、地元の企業でどこに入れるかといいますと、日産さん市光さんが難しいとなったときに、市役所とJAさんしかわからないという状況で、地元でどうやって働いていくのか、地元で貢献したい若者たちをどのように仕事につなげていくのかが一つ課題であると思っています。そのときにインターンシップというのが、地方の自治体でも盛んに行われているのですけれども、インターンシップという形で、地元の企業をより近く知っていくということですか、地元で働いていく農業ですとか、さまざまな産業で働いていくロールモデルを見せるということで、若者の地域志向・地元志向をより実現できるのではないかなという風に思っています。

それから、もうひとつは子育て世代でもありますので、子育て側の意見としましては、横浜に住んでおりまして、横浜はご存知のとおり、待機児童が非常に多く、保育所がないため、埼玉の実家の方で何とか子育てをしたという状況です。こちらに来るときも海老名市と検討したのですが、海老名市は保育所がほとんど入れなくて、伊勢原の方が空いていたので、伊勢原の方にやって来ました。ファミリーサポートを利用して、ベビーシッターさんを使っていたのですけれども、横浜よりもこちらの方が地元の方に見て頂けるということで、ファミリーサポート使わせて頂いています。子育てに対しては、いろいろな面はあるのですが、勤労世帯にとっては非常に魅力的な都市であると思っています。先ほど吉池さんが言ったように、何か発信していくのも手ではないかなと思います。

(座長)

皆さんどうもありがとうございました。私の役目は、交通整理ではないかなと思っています。二つテーマがあるんですね。ひとつは人口減少をどう食い止めるかと、まちおこしの二点です。それで人口に関してはある程度打たなければならない施策は見えている。

まずは人口減少の原因は何なのか、これは原因分析が既にされています。ひとつは未婚率の上昇、あるいは晩婚化と言われているものです。もうひとつは出生率の低下。対

策として打たなくてはいけないのは、未婚率をどう引き下げるか、婚姻率をどう引き上げるか。たぶん近隣の市もそうですけれど、ほとんど未婚に関しては市は介入していません。ここのところを上からどういう風に市がサポートするかが重要なのですね。

もう一点は出生率です。伊勢原市の合計特殊出生率は 1.32 ですから、神奈川県よりは多いですが、全国ベースでは少ないです。このままで行けば人口は減ってきてしまいます。あと 100 年経つと人口は半分になり、10 万人の都市が 5 万人くらいになる。もうひとつ大事なことは、今、子育ての人、あるいは夫婦が子どもを産んでいる世代の人たちがもう一人子ども、追加的に子どもを産む、こういう施策がどうしても必要なのです。これができれば、人口減少を食い止めるどころか、増加に転じることさえ可能なのですね。そこのところを皆さんで知恵を出し合っていければと思っております。

もう一つは、人口に関しては、転出超過の話がありましたけれども、仕事がないからみんな転出してしまう。あるいは、仕事があってベッドタウンであれば、住民税がもらえるので市としては問題ない。ただし、仕事がないとなれば転出が起きてしまう。今までの研究でわかっていることは、都道府県ベース、市町村ベースで失業率の高いところに関しては転出超過になる。伊勢原の男性の失業率は 8.5 %。全国ベースでは 5 %であり、非常に高いですね。こういうところに対しても、何らかの施策を市やハローワークを中心に打っていかないと駄目だということです。

今の話は人口の話でしたけども、もう一点は、まちおこしに関してです。基本的には外貨を稼ぐということが基本です。どういうことかということ、その市の基盤産業が何か。これは横浜銀行さんが仰ったようにいわゆる製造業だったり農業であったり、観光なんかも基盤産業になります。これは外の人に来て外貨を落としてくれる。といったような形で、基盤産業は何なのか、どうやって育てていくのかといったところが、まちおこしの中心的な議題になるのかなと思います。

それと皆さんの話を聞いて非常に重要だと思ったのは、一つはブランド化ですね。伊勢原市としてどういうものをブランド化していくのか、そういったものを考えないといけないし、ブランド化にあたっては PR が非常に重要になってくる。PR の仕方をどうするのかも皆さんで知恵を出し合っていかなければならない。それからもう少し話を大きくすると、国と地方に関しては利害関係は必ずしも一致していません。しかし、国は都市圏に関しては、地方に人口を移そうとしています。これは舛添さん黒岩さんなど反対意見が結構出ている。実はここのところでは、国と調整を行わなければならないと思うのですが、我々のこの会議では、市の立場でもって基本的な立場として行う。どこかで上のところで、利害関係は調整してもらわないと、基本的には経済学の言うところの合成の誤謬ということになります。市が全部抱えてしまうと地方に人口が移転しない形になり、合成の誤謬が起きてしまうので、どこかで調整が必要だろうと思います。

それから今日は第一回目ですので、これから皆さんの知恵を出しあっていければと思います。私もこの仕事を引き受けて、私も子育て中で今中学二年生の女の子がいますけれども、塾代がかかって仕方がない。これ以上子どもだなんて冗談ではないというのが正

直な話ですので、ですから市の財政的支援が非常に重要ということ。

それから、人口を増やすためには、たとえば、仕事があれば誘致をするのですが、誘致をしても市民が来ないと話にならない。そのためには、誘致の際に伊勢原市に住んでもらう。そのためには win-win の関係の関係がないといけない。ワークシェアリングをして衣食住接近にしてもらおう。それを基本的な条件にしてもらわないといけない。そういう風にしていければ、非常に伊勢原市としても人口が増えていくだろうと思います。観光に関しても 90 万人、人口の 9 倍の人たちが伊勢原に来ています。これが大山に行っていてですね、すぐ帰ってしまうでは困る。これは市内観光とか、うまくその人たちを、うまく巡回してもらおうことが非常に重要なところになっていくのかなと思います。

今日は第一回目なので思っていることを述べて頂きましたけれども、これからいろいろ知恵を出し合って、伊勢原市を良くしていければと思いますのでご協力をお願いします。

(2) その他

(座長)

本日予定いたしました議事は終了いたしました。それでは、「その他」に移りたいと思います。今後の推進会議の運営等について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは事務局から次回以降の日程について、ご連絡させていただきます。第 2 回目の開催を 7 月 29 日 (水) 16:00~18:00、第 3 回目の開催を 8 月 28 日 (金) 10:00~12:00 とさせていただきますので、委員の皆様、ご出席をお願いいたします。論点に関して何かご意見ございましたら 6 月 30 日 (火) までに、メールやファクシミリで事務局までご送付ください。

また、次回以降の推進会議につきまして、会議当日、ご都合が悪く、ご出席かなわないう方につきましては、事前に事務局までレポート等をご提出いただけましたら、会議の場で発表させていただきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

(座長)

日程等について説明がありましたが、何か質問はございますか。

(委員)

我々の役割の中でコンプライアンスや守秘義務など留意することがあれば。

(事務局)

会議自体が公開でやっておりますので、守秘義務等はございません。

それでは、以上をもちまして、本日の推進会議は終了といたします。委員の皆様には、会議の進行にご協力いただきありがとうございました。

《配布資料》

資料1：まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

資料2：本市人口の推移と推計

資料3：「人口ビジョン」及び「総合戦略」に関する論点

資料4：策定スケジュール